

新潮社の読書エッセイコンクール
「新潮文庫 中高生のためのワタシの一行大賞」



優秀賞!

普通科グローバルコース2年

茅ノ間さん 布津中出身

宮沢賢治『新編 銀河鉄道の夜』

選んだ一行

「どこまでもどこまでも一緒に行こう。」

私は、バスに乗って家に帰っている時間が好きだ。高校生になり、バスに乗って通学するのも、もう一年が過ぎた。学校が終わり、いつものようにバスに乗って帰る。やがて数人しかいなくなった静かなバスのなか、私は窓から景色をぼんやり眺めた。その時間だけは、学校や将来に対する不安など、現実を忘れさせてくれる。早く都会で暮らしたいとよく口にしているけど、結局私はこの町が、この景色が一番好きだ。これからもずっと変わらないでほしい。

今とは全く違う新しい環境のなかでも、私は大丈夫だろうか。いっそ、どこまでもこの時間が続けばいいのにな。そう思いながら、私はいつものバス停で降りた。

この一行には、“今”の私の本音が表れていると思った。

